

令和7年度 大学との連携事業「つながる学び みと☆Future College」実施報告書

拠点校名 水戸市立飯富中学校

連携大学 茨城大学教職大学院

研究主題 生徒自ら学ぼうとする意欲の育成
～主体的な学びを促す授業づくりを通して～

1 主題設定の理由

グローバル化や技術革新の進展により、将来の予測が困難な時代を迎えている。こうした時代を生き抜く子どもたちには、「未知の場面や状況にあっても、自ら課題を発見し、自分の強みを活かし、他者とも協働しながら、課題解決に向けて主体的に判断し自らの考えを表現していく力」が求められている（文部科学省「子供たちが主体的に学べる多様な学びの実現に向けた検討タスクフォース論点整理」令和5年9月）。また、中央教育審議会答申（平成28年12月）では、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』」の重要性が示されている。

これらは、生徒が自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に学ぶことの意義と、それを支える授業づくりの必要性を明確に示している。したがって、私たち教育者がこのような学びを促す授業を研究・実践することは、これからの時代を生きる生徒たちにとって不可欠な力を育むために非常に重要な取り組みであると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

生徒が自ら課題を発見し、解決していく授業を研究することを通して、主体的に学びに向かう生徒を育成する。

3 大学との連携事業の基本的な考え方

本校は、大学との連携事業「つながる学び みと☆Future College」における「学ぶ意欲の向上」のテーマのもと、茨城大学院教職大学院と連携し、実践を行った。本校の研究主題に迫るために、まず、教員の授業づくりに関する意識を変えることを目的として、校内研修の改善を図った。生徒を主体的な学びに向かわせるための手立てや、生徒の主体的な姿をどのように授業の中で見取っていくのか、また、生徒の主体的な姿とは、具体的にどのような姿なのかを話し合い、研究することを通して、生徒の学ぶ意欲を上げるために本事業を活用した。

4 具体的な取組内容

(1) 大学連携の実施計画

実施日	概要	内容	講師
5/7 (水)	打合せ	・ 研修内容の精査 ・ 研修計画の再考	高野貴大先生 (茨大) 長谷川真人先生 (茨大)
5/20 (火)	研究主任研修 (第1回)	・ 講話「校内研修の推進にあたって考えておきたいこと」 ・ グループワーク	高野貴大先生 (茨大)
6/5 (木)	校内研修 (第1回)	・ 目指す生徒像について、具体的な姿を考える	高野貴大先生 (茨大)
8/18 (月)	校内研修 (第2回)	・ 目指す生徒像について、どのように授業の中で見取っていくか考える	高野貴大先生 (茨大)
12/12 (金)	研修主任研修 (第2回)	・ 本事業の実践報告 ・ 講話「研究のまとめと次年度に向けた取組について」	高野貴大先生 (茨大)
1/29 (木)	校内研修 (第3回)	・ 目指す生徒像について、授業の中で見取ることができたか振り返る	高野貴大先生 (茨大)
3/11 (水)	校内研修 (第4回)	・ 目指す生徒像としてどんな具体的な姿が見られたか ・ 次年度の校内研修について	高野貴大先生 (茨大)

(2) 大学連携による校内研修の取組

① 講師との打合せ：5月7日 (水)

- ・ 本校の研究テーマをもとに、校内研修の内容について、講師の方々に相談し、検討した。
- ・ まずは目指す生徒像を教員が明確にもたないと、具体的な手立てが見えないため、目指す生徒像とはどのような姿かを考えることをご助言いただいた。
- ・ 相談内容をもとに、校内研修計画を再検討した。

② 校内研修 (第1回)：6月5日 (木)

- ・ 打合せの内容を反映し、まずは個人で、教員が目指す、主体的に学びに向かう生徒とはどのような姿なのか、具体的な姿を考えた。
- ・ 教科担当ごとに、授業の中で、主体的に学習する生徒の姿を考え、スプレッドシートにまとめた (資料1)。

教科・領域	目指す生徒像
理科	実験や観察の結果から考察し、自分の考えをもったうえで、話し合い活動に積極的に参加し、対話をしている。
社会	資料（写真・図版・グラフ等）の読み取りについて、自分の意見をもったうえで、話し合い活動に参加している。授業のポイントを、自分の言葉でまとめようとする。

資料1 目指す生徒像についてまとめたスプレッドシート

- ・多角的な視野から考えるために、キャリア、学年が様々になるようにA～Cの3つのグループに分かれ、それぞれどのような生徒像を考えたのかを共有し、共通点や、参考になる部分を話し合った。（資料2、3）



資料2 グループ協議の様子



資料3 グループ協議の様子

③ 校内研修（第2回）：8月18日（月）

- ・高野先生とメールでやりとりし、校内研修（第1回）の内容を受け、次は、目指す生徒像について、どのように授業の中で見取るかを考える内容の校内研修を実施してはどうかとご助言をいただき、研修を行った。
- ・教科担当ごとに、どのように生徒の姿を見取るのかを考え、スプレッドシートにまとめた（資料4）。

教科・領域	授業の中で、どのように見取っていくか
理科	考察の共有をする前に、自分の考えをノートやワークシートに表現できているか。話し合い活動のときに、発言をしているか。相手の発言に対して、疑問に思ったことや、気になることを質問しているか。【ノートやワークシートへの記述と、話し合い活動の様子を観察することで見取っていく】
社会	①個別活動の時間、グループでの話し合い活動の時間を確保（授業内での位置づけ）し、活動の様子を観察する。 ②活動の記録としてのワークシートやノートのまとめ方の指導を行い、細かに点検をする。

資料4 授業の中で、どのように見取っていくかまとめたスプレッドシート

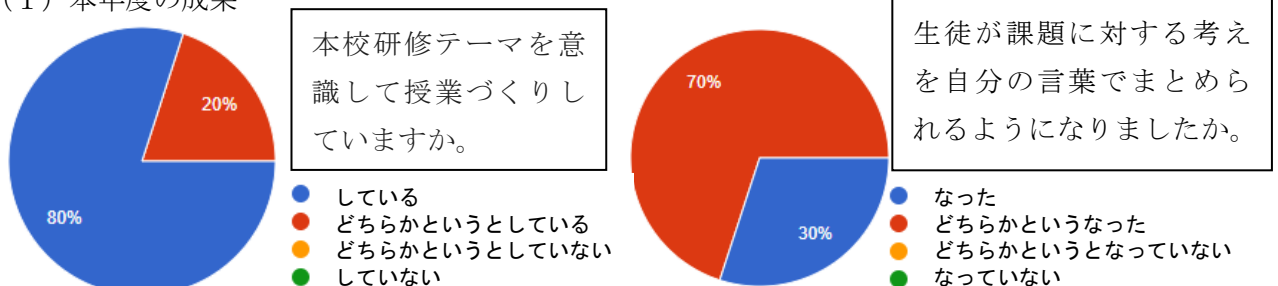
- ・第1回と同様、3つのグループに分かれ、教科ごとの生徒の姿を見取る方法を共有し、共通点や参考になる部分について話し合った。
- ・高野先生に校内研修の内容を参観いただき、校内研修に関するアドバイスと、次に向けての研修内容を検討した。

④ 校内研修（第3回）：1月29日（木）

- ・高野先生とメールでやりとりし、校内研修（第2回）の内容を受け、次は、目指す生徒像について、どれだけ授業の中で見取ることができたか、振り返る内容の校内研修を実施してはどうかとご助言をいただき、研修を行った。
- ・教科担当ごとに、目指す生徒像にどれだけ近づけたかを把握し、成果と課題をスプレッドシートにまとめた。
- ・3つのグループに分かれ、それぞれどんな成果と課題があったかを共有し、協議した。
- ・高野先生に校内研修の内容を参観いただき、校内研修を通しての教員の良かった点等をフィードバックしていただいた。教員が、生徒の主体的な姿をしっかりと見取り、研修を行っての成果と課題について、積極的な話し合いをする姿が素晴らしいと講評をいただいた。

5 成果（進捗状況と今後の課題）

(1) 本年度の成果



資料5 教員に対して行ったアンケート結果（2025年12月23日）

教員に対して行ったアンケート結果（資料5）から、多くの教員が研修のテーマを意識して授業を工夫しており、その結果、生徒が自分の言葉で考えをまとめられるようになったと感じている。これは、生徒の主体性が高まったことを示しており、本事業を活用した校内研修の改善がその成果につながったと考えられる。

(2) 今後の課題

今年度は、教員の授業づくり、目指す生徒像を明確にもって授業を行うことを中心に校内研修を行ってきた。それらに多くの時間を費やしたため、教科ごとの詳細な授業づくりに関する研修にあまり時間をかけられなかった。目指す生徒像に近づくための手立てに重きを置いた校内研修を次年度以降も継続的に行い、更に生徒の主体的に学ぶ態度を育てていくことが大切である。